

若者たちの声があふれていたことを忘れないで



↑OBと卒業生が一緒になって校歌を斉唱



↑OBが閉校の思いを込めた歌を披露



↑教室には思い出の写真が飾られた



↑最後となった卒業証書の授与

58年の歴史に幕 長島高校 閉校式

高校再編のため3月末で閉校した鹿児島県立長島高等学校で3月2日、卒業式と閉校式がありました。最後の卒業生24人が学びやを後にするとともに、58年の歴史に幕を下ろしました。

卒業式には、最後の卒業生のほか、PTAや長島高校が統廃合される鶴翔高校の本町出身者44人らが出席しました。松元洋一校長は「伝統をもつ長高の校訓を胸に刻んで、これからも感謝の念を忘れず、一日一日を大切に生きてください」と式辞を述べ、鶴翔高校の長岡拓志君（2年）が「私たちは皆さんの後輩です。先輩方の思いを受け継ぐことができればと参列しました。長高精神を受け継ぎ、鶴翔高校の伝統を築きま

す」とあいさつ。普通科2人、商業科22人の生徒が新しい道に踏み出しました。

続いて行われた閉校式では、生徒や教職員、OB、前

職員、地域の人たち約300人が出席。鹿児島県立長島高等学校閉校記念事業実行委員会の小田安朗会長が「たとえ存在そのものが消滅したとしても、心の中の存在は不滅です。長島に高校があったことを、平尾の丘に若者たちの声があふれていたことを忘れずにいてください」と万感の思いを込めてあいさつしました。

続いて、東京で働きながら音楽活動をしているOBの谷口修一さん（24）が、閉校式のために作った歌を披露した後、最後の卒業生とOBがステージで一緒に校歌を斉唱して締めくくられました。

長島高校は、鹿児島県立西長島高等学校として、昭和23年3月に設置認可され、定時制本科農業科、別科家庭科、野田分校、東長島教場ができました。昭和24年3月に野田分校が独立し、昭和27年10月に鹿児島県立長島高等学校と改名されました。昭和48年6月に平尾に移転。平成19年3月、高校再編により閉校。